

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 開会宣告
- ・ 議題の確認

1 閉会中継続調査事件

(1) 財政健全化に向けた取り組みについて

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 議題宣告
- ・ 本件については、3月12日開催の委員会において、具体的な調査方法などについて整理していくことを確認していた。
- ・ まずは、財政健全化に向けた取り組みという様々な切り口による調査が想定される本テーマについて、このたびの調査のポイントを整理したいと考えており、正副で調製した資料を基に、皆様から御意見を伺いながら、調査のポイントをまとめていきたいと思うがよろしいか。（異議なし）
- ・ そのように確認し進める。
- ・ 資料説明：「財政健全化に向けた取り組みについて」（総務常任委員会正副委員長調製）
- ・ 資料の説明は以上だが、正副から提案させていただいた調査の目的と方針、調査のポイントなどについて、各委員から何か発言あるか。

○金澤 浩幸委員

- ・ 重い話だと受け止めた。
- ・ 市、職員、議会そして市民が、この先を考えたときには危機的な状況に陥るということを共有し、見える化させ、今後どうするのかについて、市民との対話を図るという3点だと見た。
- ・ 函館市の現状について、委員会で確認したほうがいいと思う。今後の方針として、どういうものを重点的にやろうとしているのかを確認し、その上で、正副委員長が提案されたどこかへ調査に行くという形なのだろうと見ていた。
- ・ いずれにしても、やはり重い話だ。調査の方法も、どうするかかなり微妙で難しいというのが率直な感想である。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 金澤委員が言ったとおり、情報・意識の共有がまず必要だということで、各市の先進的な事例の中でも、市民等との対話、情報の共有、あるいは市長を含めたリーダーシップも大変重要なポイントとなると思っており、御紹介した市でもそのような取組が行われているため、そういったことも十分に確認しながら進めてまいりたい。

○松宮 健治委員

- ・ 金澤委員の言ったとおりであるが、加えて、4つの市の市としてのスタンスがきちんとしているかどうか。職員の意識、その基となる市長の意識がとても大事である。市長として、財政状況が厳しいということを明確に言えるかどうかだが、市長の3年間のスタンスを見てみると切り詰めるという雰囲気はあまりない。自分の政策を実行したいという思いは十分に分かるが、それを突き進めていくと

本当に財政が破綻してしまうのではないかと思う。そういう意味では、やはり鍵になるのは、市長の決意である。

- ・ 最近の議会では財政の質問が多いが、市長の答弁に納得いくものがあまりなく、大丈夫かなと正直思っている。市のスタンスを出さないと、市民は納得・協力してくれないと思う。
- ・ 今回の調査で色々な知見を得るが、それを基にちゃんと市を動かせるかどうか少し不安がある。

○福島 恭二委員

- ・ 市長が、財政についてどういう認識をしているのか。単にこれまでの経過を受け止めると、あれもこれもやるというようなことばかりで、財政をあまり気にしていないように思う。市長がどういう認識をしているのかということが一番問題だと思う。
- ・ 度々議会で質問されて、最近特に集中と選択ということが出てくるが、例えば、Aという課題の中の人口減少問題について様々な取組があり、その中で集中と選択をしていき、今まで10あるものを半分置いて、その半分以上を集中的にやるということであると思うが、果たしてその集中と選択をするということの「選択」が正しいのか。今までより効率が良くて効果があるのかどうか。集中と選択の「選択」の仕方について、きちんと議論すべきだと思う。それが今のところ全くない。
- ・ 調査することは構わないが、集中と選択の検証をどうするか、なぜそれに集中することにしたのかについてお互いに共通認識を持っておく必要がある。なぜこれをやめてこれに力を入れなかったのか、どういう効果があるのかということを知りたい。中身をきちんと踏まえた上で、より効果があるのかといったようなことについて確認をしなければならない。
- ・ これからの取組についても、市長が何を考えているか分からないので、集中的に審議・議論するにもしようがないと思う。我々の調査は我々の立場で独自に行うということではよいが、市との関係でいうと、市長が財政の危機感を持っていないと言わざるを得ない。事業を展開するにしても、肝腎な裏づけになる財政が見えない。首長という立場での発言ではないというふうに思わざるを得ない。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 委員会として、どういう形で財政健全化を進めていくのか、その土壌をどう作っていくのかということについて調査をし、取りまとめていく趣旨なので、御理解をいただきたい。
- ・ 選択と集中という表現自体がどうなのかということも少し思いがある。企業が事業・経営を進める上で必要な手法として、選択と集中という言葉を使ってきたと思うが、公共サービスを提供する自治体が、どういう形でできるのかというようなこともある。実際に財政健全化を進めていく上で、どういう取組をしていくのかは、皆様の御意見を聞きながらやっていきたい。

○福島 恭二委員

- ・ 集中と選択という意味をきちんと踏まえて取り組みたいという思いならよいが、集中するというものが他のものより効果的で実効性があるのだということで選んだものなのかなど、我々と意見の違いが出てくると思う。そういうものをお互いに意思統一し、共通認識を持って取り組むことが大事である。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 分かった。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 議会として財政状況をどう考えていくかというあたりでの調査は必要だと思うが、地域の市民の皆様から聞くと、函館市は財源なくて大変なんだってねという声をどんどん聞いて、危機感を感じている。私たちの行政サービスは低下していくのかとすごく怖がっている。
- ・ ネーミングライツは、見える化のような形で、名前についてはいろいろ言われるが、函館市が頑張っているから、慣れていくしかないと言え。
- ・ 今までは、市の職員を減らし、公共施設を固めて1つにして財源を作っていくという方法だったと思うが、そこには市民が不在だったことで不満が出てきたのがこの間の経験であるのだが、そうではなくて、人口減少が続く中、函館市の財政をどう維持していくのか、サービスを低下させない方法はあるのかということ調査したいと思う。
- ・ 事例を4つ見たが、函館市の人口とかけ離れている市が多い。できれば人口が近いところで、市民も巻き込んで財政の健全化をしてきたところに調査に行きたい。私たちも協力したいと言えるような財政の在り方にしていきたい。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 市戸委員が言ったとおり、人口規模は、近いところとそうではないところがあるが、実際に財政状況が苦しくなり、それを市民と情報共有する手法、市民にお知らせする方法、市民の声を聞き、どう反映させていくかというような手法は、人口が少なければやりやすいところもあるのかもしれないが、どう活用していくかということも調査の一つの視点にもなるだろうと思う。先方の状況なども含め、人口が多い自治体だけで調査できないかもしれないが、そこは御理解をいただきたい。
- ・ お話があった件についても、調査の中で皆さんからそれぞれの自治体に質問していただければと思う。

○荒木 明美委員

- ・ 土壌づくりという大きな課題意識に対し、2つの具体的手法を用いて調査をするということは理解したが、危機的な状況を克服したプロセスというところ調査の中に含め、財政健全化するに当たって宣言が出て、どのように克服していったのかというプロセスは知りたい。もう一つは、人口動態や産業構造、地理的条件が全てマッチする自治体を探すのは本当に難しく、そこが財政危機かという意外に良く、全てを包含することは難しいと思うが、函館市にどう応用できるかということをつかいた上で、場所を決めていただきたいと思う。
- ・ 例えば、地理的条件や産業構造は違うが、出てきた結果はこう読めるといったようなことがあらかじめ想定できるのであれば、違っていても理解はできるが、やってみて出てきた結果、自治体が違うから何とも言えないという結果になることは避けたい。地理的にも三重県・大阪府と近いところが多いため、2か所だけでなく3か所の場合もあるのかもしれないが、そういったところも加味して選んでいただきたい。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 分かった。正副としても考慮しながら協議をして参りたい。

○浜野 幸子委員

- ・ 大きな違いは人口面で、対等であれば参考になる。決して悪いということではないが、余りにも差があるため、少し期待に外れた数字が出てくるという実感である。

- ・ 重い課題であるため、簡単に結論は出ないと思っている。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 分かった。
- ・ 基本的には、財政非常事態宣言やこれに近いメッセージが出されて、それを克服できたところ、あるいはその土壌になるようなものを何都市か見させていただいた。ただ、先方の状況などを含めるとなかなか難しいこともある。さらに検討するが、この中から選ばせていただきたいと思う。

○市戸 ゆたか委員

- ・ ひとまずこの4つの自治体から選びたいということか。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ そうである。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 2か所か。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 恐らく2か所となる。

○市戸 ゆたか委員

- ・ 人口の近いところをお願いしたい。

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 移動のことを考えると3か所は難しいかと思う。
- ・ その他各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 各委員から出た御意見等について説明いただけるよう、私どもから先方へ伝え、お引き受けをしていただける自治体を選びながら進めていきたい。
- ・ 本件調査のポイントについては、財政健全化の土壌づくりということで確認をさせていただきたいがよろしいか。（異議なし）
- ・ 次に今後の進め方について、次回以降の委員会で、調査のポイントやいただいた御意見に基づき、本市の財政状況や、見える化の取組などについて、理事者から説明を受け、その後、課題等を整理した上で、他都市の取組事例も含めて調査を行って参りたいと思うが、そのような進め方でよろしいか。（異議なし）
- ・ その他本件について各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 閉会中に委員会が行った調査については、次の定例会で報告することになるが、委員長の報告文については、委員長に一任願いたいと思う。これに御異議あるか。（異議なし）
- ・ 議題終結宣言

2 その他

○委員長（板倉 一幸）

- ・ 2のその他だが、各委員から何か御発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前10時37分散会